第3期第8回多文化共生社会推進協議会

議事録（摘録）

会議名		第3期第8回川崎市多文化共生社会推進協議会
日　　時		令和7（2025）年10月10日（金）14時～16時
場　　所		本庁舎２１階会議室
出席した者の氏名	委　員	（1）大西　楠　テア　委員　（2）　小ヶ谷　千穂　委員　（3）孔　敏淑　委員 （4）　南　昭子　委員　　（5）本田　量久　委員
	事務局	市民文化局市民生活部多文化共生推進課 （1）小出課長　（2）吉留担当課長　（3）藤澤担当係長　（4）河田専門調査員
欠席した者の氏名		
議事及び公開・非公開の別		議題（公開） １　開会（公開） ２　本日の日程、資料確認（公開） ３　第３期川崎市多文化共生社会推進協議会報告書について ４　その他（公開） ５　閉会（公開）
傍聴者		０名
配布資料		・座席表 ・委員名簿 ・資料１　川崎市多文化共生社会推進協議会（第３期）審議計画（案） ・資料２　第３期報告書（最新版） ・第３期第７回川崎市多文化共生社会推進協議会会議録（摘録）

１　開会

〇小出課長（会議の成立、会議の公開について説明）

２　本日の日程、資料確認

〇藤澤担当係長（日程説明、資料確認）

３　第３期川崎市多文化共生社会推進協議会報告書について（公開）

〇小ヶ谷会長　本日の議事として、ドラフトの確認だが、事務局から説明をお願いする。

〇藤澤係長　（資料２に基づき説明）

〇小ヶ谷会長　今日はドラフト確認会の１回目ということで、まず、私は前回の指針の改訂作業ことを「はじめに」のところに加筆した。これまでの議論と、それから、今３期の流れについて加筆する予定でいる。本田先生、何かおありか。

○本田副会長　内容的には、電子図書館について、外国人の日本語学習だけでなく障害のある子どもたちにとっても、学習効果が期待できるといった内容で書いた。また、居場所としての図書館の役割に言及しつつ、施策の取組状況や現状について記述した。今後の課題については、外国語の本が図書館にはさほど多くない一方で、国際交流センターにはたくさんあるということなので、連携できるといいとまとめた。

○小ヶ谷会長　多文化共生プラザの施策取組状況は現状箇条書きで、背景や対応言語、役割・機能を詳しく書きたい。展示やコーナーの記述は、訪問時期に時差があるため、コメントや課題に反映する予定である。開設前のプレ調査や報道も取組状況に加えるか検討中である。コメント部分はヒアリング記録を基に構成している。地理的特性と外国人市民ニーズが設置の重要な背景であり、国際交流センターとの違いや協力を記載。情報発信の課題（口コミ・SNS）をプラザの役割として明記した。今後の課題として、親しみやすさやアクセス性の向上を検討している。他地域にも同様の施設を望む声があり、その点も記載予定。外国人市民が施策に積極的に関わる拠点としての機能を強調したい。ａ部分を増やし、プレ調査をｂに移すなど構成を調整する方針。大西先生は状況いかがか。

○大西委員　まだ時間が取れていない状況である。

○小ヶ谷会長　他の委員の方はいかがか。

○南委員　本田先生にお願いで、６ページ、「蔵書リストが整備されておらず」というふうになっているが、本日現在、整備されているため、この時点では、「整備中」としていただけるとありがたい。

○本田副会長　ではａのところに移そうか。

○南委員　ただ、まだ公表していない。

○本田副会長　「整備中」ということで了承した。

○小ヶ谷会長　指針に書かれている内容と項目が一致している。なので、特にこの図書館のところが割と具体的であるため、書き方としては、順当に行けば、これに対応させるような形で取組状況を書くというのが標準的な流れかなというふうに思う。ただ、例えば日本語学習コンテンツの活用とかというのも、もしかしたら、今回のヒアリングの中ではというか、図書館には直接関係しないかもしれないので、むしろ地域における学習支援等の充実の中に図書館における外国語図書の充実に努めるとすることが適当であろう。

○小ヶ谷会長　例えば、この①の指針２の（３）の、①の最後のこの「図書館における外国図書の充実に努めます」があるからヒアリングした、という背景などを書いてもいいかもしれない。

○本田副会長　実際に、例えば外国人の日本語指導に関しては、ほとんど言及がなかった。ボランティアの定義があるかどうかもよく分からない。ただ、情報収集中であることはわかる。

○本田副会長　国際交流センターの図書室に、外国語図書もあることはわかるが、利用実績は公表しにくいか。

○小ヶ谷会長　全ての今回検証した場所が同じように対象ではないので、それぞれの特性と、指針との距離感とかあると思う。

○本田副会長　日本人、外国人を問わずに誰でも入ることができるというのが大きい。しかし、当日、観察したかぎりでは、外国人利用者は少なかったようである。ただ、本は結構あったという印象である。

○小ヶ谷会長　行ったとき、利用者は多かった。紙資料も多数あり、説明もあった。

○本田副会長　図書館利用者のなかには、一緒に絵本を楽しんでいる親子がいる。幅広い市民にとって図書館が地域の居場所となっていることが分かった。

○小ヶ谷会長　そのことに関連する記述は既に本田先生が書いてくださっている。

○南委員　センターとの関係で、ｂ、コメントと今後の課題のところ２行目に、「センターとの違いを明確化し」というふうに書かれているが、私どもの当面の心積もりとしては、一体となってやっていくという感じで、違うものとしてそれぞれ頑張るという想定ではない。「独自の活動」というふうにも書いていただいているが、あまり、それぞれが独自性を発揮するというより、あちらでやったいいことはこちらでもやろうという心積もりで進めている。

○小ヶ谷会長　分かった。では、書きぶりをトーンを変えたいと思う。

○事務局　質問がある。

○小ヶ谷会長　どうぞ。

○事務局　多文化共生プラザのところのａの施策の取組状況の一番最後のポチで、「開設前のプレ調査の結果」とあるが、これはどの活動を指すか。

○小ヶ谷会長　プラザを作る前のヒアリングのことである。

○事務局　大田区、杉並区に視察したことか。

○小ヶ谷会長　ではなくて、横浜市内での拠点の聞き取りをやった。プレ調査というと語弊があるのかもしれない。

○事務局　何か所か見に、調査に行ったという経過は確かにある。

○小ヶ谷会長　望む声があってできたというのは、コメントとかもよりも違う形で入れ込むようにするほうがいいだろう。

○大西委員　議事録を見て、落ちている論点というのはないと思うが、議事録の中での扱われ方として、最初の１個目のコメントのｂの１個目の中黒を見てみると、相談員の役割、スタッフが外国語の相談員が独自性を示すことで、相談員とプラザの付加価値が高まるという書きぶりで書かれているが、その相談員に会いたいから寄るみたいな形で、支援につながるという文脈が出てきていて、それは論点が落ちているわけではないが。、同じ相談員の役割でも情報発信、支援、あと相談員自体の居場所みたいなものと分けるかどうかというのはあり得ると思った。

○大西委員　２つ目の情報発信のところは、より情報発信に特化した論点について見ても、ＳＮＳでの情報発信に関して議事録を見ていると、日常的なことをもっと多文化行政推進課が発信したほうがいいというようなことが書かれていて、これだけ見てみるとＳＮＳを使った情報発信が大事だというふうな書きぶりだが、、そうではなくて、本田委員が言っていた、見たくなるようなＳＮＳにすべきだという、情報の拡散のルートを確立していくべきなのだという文脈がある。何か情報発信が課題だといったときに、新しい技術も使ったほうがいいというのと、情報が伝達する経路をつくるべきだ、積極的につくるべきだというような要素と両方があるかと思う。

○小ヶ谷会長　なかなかそれが難しいという流れのなかで、行政のできる範囲内の書きぶりにするということだろう。

○大西委員　本田委員の発言で、キーパーソンを使って情報が拡散していくという話なので、キーパーソンを見つけることも大事なのではないかと書いてみてもいいかもしれない。

○本田副会長　ただ、やはり行政活動から外れてしまう。どうやって外国人市民に語ってもらうことができるだろうか。行政発信のプラットフォームはＳＮＳで設定できても、市民は自由に書き込みはできない。

○小ヶ谷会長　コメントはできない設定になっている。そのなかで、情報をどうやって伝えるかということ

がずっと課題だから、そんな意味で少し平板な書き方になっているかもしれないが、相談員がキーパーソンになるという論点は大事だと思うので、書き加えたい。

○大西委員　相談員ではなくて、外国人市民代表者会議の同窓会で情報発信したという話があって、キーパーソンはいろんな人があり得るということなのかなと思う。

○小ヶ谷会長　医療も高齢者も割と論点のところは明確かと思う。特に高齢者は、ヒアリング対象が多かった。報告書をまとめるに当たって、「おわりに」は、これから、全体そろったところで、総括的なことを私の方で書こうと思う。では、今日のこの２つ目の議題の報告書について、ドラフトの確認・取りまとめというのは、ここまでにしてもよろしいか。大丈夫ですか

○大西委員　報告書作成の過程で、議事録の要約のためにＡＩに読み込ませてよいか。もちろん、最終的に文章に責任を持つのが人間なので、ＡＩの生成したものをそのまま使うということではなく、あくまで補助的に活用したい。

○事務局　庁内でＡＩの使用可否については確認して連絡する。

４　その他

○小ヶ谷会長　では、次、４その他について、チラシ二つについて事務局から説明をお願いする。

○事務局　１０月２６日に、外国につながる先輩に進路について聞いてみよう！という、外国人ルーツのある若者に学生時代のいろいろな思い出や進路について話してもらい、現役の中学生や高校生の進路を考える機会として企画している。また、当日は行政書士の先生が２名いらっしゃるので、進路と同時に在留資格の相談もできる企画になっている。まだ申込を受け付けている。

○小ヶ谷会長　市立川崎高校など、外国つながりの高校生が多い学校には、個別に案内しているか。

○事務局　教育委員会経由でやっている。

○小ヶ谷会長　同じ日に多分、東京都内の他の進学ガイダンスがあると聞いている。行事の多い時期であり、そのような日程関係で申込の少なさがあるかもしれない。

○事務局　この企画は、川崎市国際交流協会と横浜市国際交流協会に御協力いただいているもの。

○大西委員　学校にはポスティングしているか。

○事務局　はい。

○小ヶ谷会長　行政がやることで信ぴょう性も担保されるのでよい企画と思う。

○事務局　では次、２枚目のチラシは１１月１６日の日曜日に、毎年一度行っている川崎市外国人市民代表者会議のオープン会議、定員は１００名だが毎年大体６０名から７０名にお越しいただいて、テーマを一緒にお話ししたり、説明したりという機会を設けている。常会では傍聴のみであるが、この機会だけは一緒に話合いを代表者の方とできるというもの。

○小ヶ谷会長　何か質問があるか。無いようなので、次、スケジュールについて、事務局から説明をお願いする。

○事務局　次回のスケジュールについて、資料１の審議計画のとおり、次回は２年目第４回、１１月２１日金曜日に提出いただいたドラフトの確認になる。場所は、本庁舎３階の３０４会議室である。それに先だって、１１月７日までに、本日の審議を踏まえた報告書の修正版の提出をお願いする。

○小ヶ谷会長　了解した。５回目の日程調整についてこの場で決めてはいかがか。（委員らで日程確認）では、２月６日金曜日１４時からとする。事務局から連絡事項があるか。

○事務局　特段ない。

○本田副会長　プレ調査のときと状況も変化しているだろうから、実際現場に足を運ぶべきか。

○孔委員　多文化共生プラザは、個人の相談が多いか。それとも日本語学級の団体見学となるか。

○事務局　個人の相談が多い。

○孔委員　周知のために団体での見学を企画するのも手だろう。

○孔委員　以前、新百合ヶ丘の入管に案内を配架できないか照会したところ、断られたという経緯がある。川崎市北部には、外国人支援の拠点がない点についてはこの場を借りて強調したい。

○南委員　日本語学級の話に関連して各市民館の日本語講座をやっている担当者のところに行って、日本語講座は、受付時に直接便りを渡してもらう流れをつくった。配架していても、教室と廊下の動線で見落とすことが多いので、受付の際に確実に手にわたるよう工夫した。

○孔委員　最も必要としているのは日本語学級の方たちだろう。

○小ヶ谷会長　よいアイデアだと思う。

○大西委員　本田先生の質問に戻ると、報告書は個人の分析ではなくて、会議体の分析なので、必ずこの場で行ってみたらこうでしたという話をした、議論した体をつくるということが大事かと思う。

○小ヶ谷会長　これで今日の協議会を閉会とする。